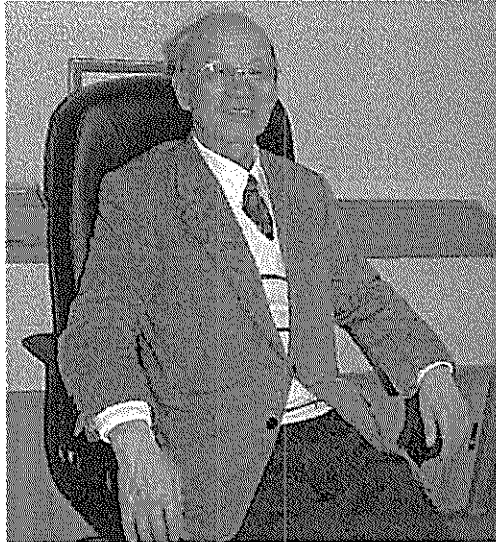


決断



ドライブイン「ゆにろーず」会長

(取手市)
おの 大野 圭一 さん 71

現在、直営店は県内や千葉県に十二店、年間売上高は十一億円を超え、全国展開も視野に入れる外食チェーン店だが、始まりは小さな郊外型ドライブインだった。

取手市の国道6号線沿いに、飲食施設とゲームセンターを融合した郊外型ドライブイン「ゆにろーず」一号店をオープンさせたのは一九七三年。客の評判も長く、すぐに

二号店の開店に踏み切った。千葉県我孫子市に百坪の大型店を出店して勝負に出たが、売り上げは思うように伸びず、赤字に苦しみ続けた。

救世主は意外な形で現れた。七八年に「インペーターゲーム」ブームが到来。ゲーム目当ての客が殺到、コイン入れがあつた。千葉県我孫子市に百坪の大型店を出店して勝負ぶり、一気に黒字を確保した。

しかし、大野さんの表情は険しかった。自力で上げた。大野さんは一九三三年、雑貨商の長男として取手に生まれた。「もったいなげに生きた。大きな舞台で商売をしたい」と実家を飛び出し

積極展開で全国視野に

強まる一方だった。そこで、会社の基盤体力をつけようと、店で提供するめん類の品質向上や新製品開発に全力を傾注した。当初はうどん、そばを販売していたが、若い客層の好みに合わせてラーメンに特化、味の改良を繰り返しながら固定ファンを増やした。

その後、徐々に店舗網を拡大。継続的な研究努力の結果、数年前に、場

が殺到、コイン入れがあつた。千葉県我孫子市に百坪の大型店を出店して勝負ぶり、一気に黒字を確保した。しかし、大野さんの表情は険しかった。自力で上げた。大野さんは一九三三年、雑貨商の長男として取手に生まれた。「もったいなげに生きた。大きな舞台で商売をしたい」と実家を飛び出し

ラーメンに特化し固定ファン増

かに咲き誇りたいという夢を込めたという。

二〇〇二年十一月期決算と同時に、いずれも社長を務めていた店舗管理とラーメン製造の二つの会社を統合、新会社「ゆにろーず」の会長に就任した。社長の長男秀之さん(43)ら息子三人とともに積極展開を続けている。昨年からは新規客層の開拓に乗り出し、女性をターゲットにしたラーメン店「笑福門(しょうふくもん)」を駅前などに開店。三重県に昨年開いたフランチャイズ方式の店舗も順調な売り上げを記録し、全国展開も視野に入ってきた。数年以内に店舗数を倍増させる予定。

「七十歳を超えたこれからが本当の勝負」。大野さんの目はますます輝きを増している。

(小林 直貴)